内水試 かわら版 No.173

2001.8.29

今年のアユの遡上状況

茨内水試図

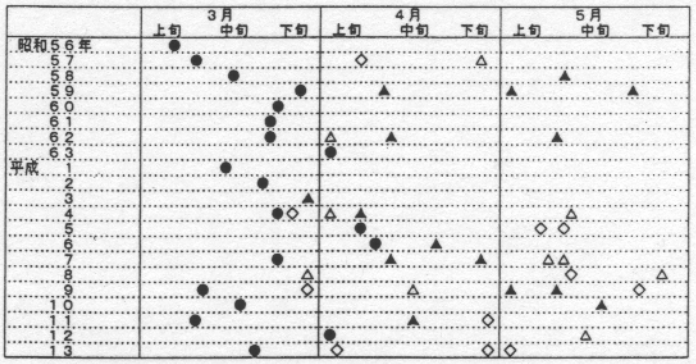
内水試では、大北川・久慈川・那珂川・鬼怒川において、投網によるアユの遡上状況調査を行っています。今年度の県内河川のアユについて、遡上状況調査の結果をまとめたのでお知らせします。

【遡上の時期】

今年度アユの遡上が確認されたのは那珂川が３月７日と最も早く、久慈川・大北川は３月中下旬でした。昨年はどの河川も４月上旬以降であったので、半月から１ヶ月早かったことになります。

那珂川の遡上が特に早かった要因として、久慈川や大北川の水温は３月中旬まで５～７℃台（遡上が確認されたのは10℃弱）でしたが、那珂川では３月上旬に９℃まで上昇しており、水温の差が関与しているものと思われます。

久慈川での遡上の盛期（図１参照）は、早期群が３月下旬～４月上旬、後期群は４月末から５月上旬と全体に早めでした。最近では一昨年が同様の傾向で、海水温の経過も似ていました。



●は初採捕日。▲は１０投網あたり３０尾以上、△は５０尾以上、◇は１００尾以上の採捕。

図１　久慈川下流域での投網調査の採捕状況

海からの遡上はこの様に順調でしたが、４月以降何れの河川も渇水傾向であったため、河川内では上流への移動が滞っていたようです。久慈川上流の大子付近では、５月中旬になってもアユが見られず、またハミ跡も少なく中下流域とは対照的でした。しかし、解禁近くにはこうした状況も解消され、いずれの漁場も好漁となりました。

【河川等の環境】

県内の河川水量は、３月は通常の状態でしたが４月以降少なくなり、特に４月末には那珂川や久慈川で取水制限が行われるほどの渇水でした。また、農業用の取水も始まり、魚道に水がない状況もみられました。

しかし、５月に数回あった降雨後には平水程度まで回復しました。

冬季の沿岸海水温は、１月に一時 10 ℃を割り込み平年より低くなりましたが、２・３月は 10 ～ 12 ℃が維持されました。

【遡上量】

那珂川、鬼怒川での投網による採捕数は近年では多い方でした（図２参考）。久慈川の投網調査では、早期群の盛期が明瞭で、まとまった数が遡上したものと思われました。

後期群は下流域に滞留ぎみになったために多く見えた（多く採捕された）ものと考えられますが、早期群と併せた最近の遡上量と比較すると、少なくとも中程度の水準に達すると思われました。

大北川でも投網の結果や河川内の様子から、近年と比較すると良い方でした。

解禁後の釣りの状況は各河川とも良好で、「魚の数が多い」という声がよく聞かれました。

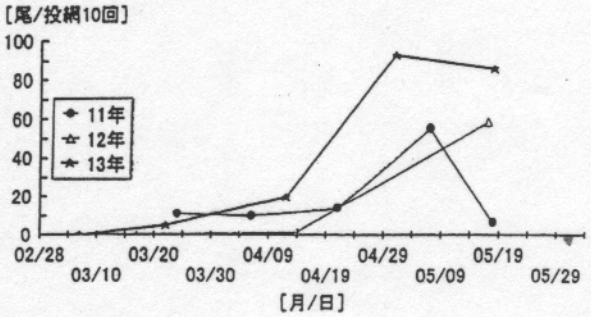


図２　投網10回当たりのアユ採捕数（那珂川）
（小場江堰と千代橋の平均値）

【遡上魚の大きさ】

久慈川での早期群初期の遡上魚の体長は全長約 10 cm、後期群の盛期は全長７～８cm台で、例年と比べ平均的な大きさでした。

６月に友釣りで釣れた天然魚（山方町の岩井橋、大子町の所谷）は平均 53 グラム（全長 17.4 cm）で、遡上の遅かった昨年（53 グラム、17.5 cm）とほとんど同じ値でした。遡上の早かった一昨年は平均 73 グラム（全長 18.7 cm）でしたから、今年は遡上が早かった割に小さいことになります。海からの遡上は早かったのですが、河川水量が少なく上流への移動が遅れたために密度が高くなり、エサ不足などの影響により解禁までの成長は良くなかったようです。

なお、６・７月に２５cm以上の天然魚も釣られていましたが、早期群の中でも初期に上流に遡上し、良い場所を確保できた個体ではないかと思われます。

担当：里美支場（TEL:0294－82－2448）

茨城県内水面水産試験場（TEL:0299－55－0324）